

OCT検査

2024年4月から新たに取扱いを始めた新検査です。

ご受診をおススメいたします！

(渋谷アクシュ、ファーストプレイス横浜 限定)

OCT検査とは？

眼の奥の視神経の厚みを画像解析で測定する検査です。
視神経の厚みから緑内障を早期発見します。

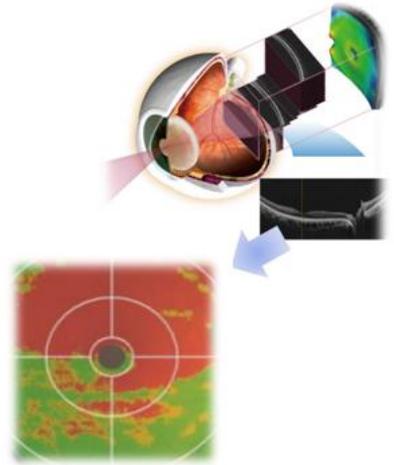


赤外光で目の奥をスキャンします
(眩しくありません)



断層画像が撮影完了
断層像から視神経の厚みを解析

緑内障によって視神経が痛み薄く
なっている部分を**赤色**で示します



健診で受けるメリット

失明原因1位は緑内障

徐々に視界が狭くなる緑内障は自覚症状がほぼなく、
いつの間にか進行しているというケースが多い視覚障害です。



緑内障で失った視界の回復はできません。

早期発見・早期治療が有効
(OCTは症状自覚前でも発見可能)

従来の眼底カメラ・眼圧検査に加えることで
より精度の高い検査を行うことが可能

スキャン時間2秒の簡単検査。
受診者に直接触れることなく**負担の少ない検査**

受診可能施設

ヘルチェック 渋谷アクシュまたはファーストプレイス横浜

料金

OCT検査は眼底検査とセットで受診された結果で判定します。
必ず「眼底+OCT」でお申し込みください。

OCT検査 : 3,410円 (税込)

ご予約済みのコースに眼底検査が含まれている場合、
こちらの料金でのご案内となります。

眼底+OCT検査 : 4,400円 (税込)

ご予約済みのコースに眼底検査が含まれていない場合、
こちらのセット料金でのご案内となります。

申込方法

健診をご予約済みの方の追加申込はこちら

<https://ef77171c.form.kintoneapp.com/public/hc-reservation>



これから健診をご予約の方はこちら

<https://web.health-check.jp/webreservesp>



当日、施設での追加も可能です。是非ご受診ください。

そのカラダのお悩み

腸内フローラ検査で 解決のヒントを見つけませんか？

こんな方におすすめです



お腹の調子が悪い



痩せにくい



ストレスが多い



肌荒れしやすい



食生活が乱れがち



免疫機能の不調

腸内フローラ検査サービス
Mykinso Pro
マイキンソープロ

検査実績数
国内 **No.1**

累計検体数
10万件以上

マイキンソー管理栄養士による、**あなたの腸内環境**
に合った食事や生活改善**アドバイス**つき



あなたの腸内環境を
A~Eの**5段階**で判定



「腸活ご相談コール」でマイキンソー管理栄養士に直接検査結果や腸活について電話相談ができます

腸内フローラについては
二次元コードから（動画）



検査結果の詳細イメージは裏ページへ

CY24-0001

検査料金 ▶ **16,500円** (税込)

※全センターで検査お申し込みいただけます。



総合健診センターヘルチェック

検査の流れ **自宅できんたん!**

① キットの受け取り



当院から検査キットをお受け取りください
※受診当日、センターでのお渡しになります。

② 自宅で採便



ご自宅で検査キットを使い便を採取します

③ ポストに投函



採便したキットを同封の返信用封筒に入れポストに投函します

④ 結果の受け取り



検査会社から郵送で検査結果が返却されます
(ポスト投函から4~6週間)

よくあるご質問

Q 検査でどんなことが分かりますか

A 腸内フローラの総合判定や生活習慣病等の疾患別リスク判定、有用菌や要注意菌などの結果が分かります。菌の結果に合わせてカスタマイズされた、改善アドバイス(管理栄養士監修)もついています。

Q 検査結果や腸活の内容について相談できますか

A 検査結果公開後は、「腸活ご相談コール」サービスにて、無料で株式会社サイキンソーの管理栄養士とマンツーマンで電話相談が可能です。※事前予約制

Q 検査結果は紙ですか、webですか

A 紙レポートです。「マイキンソーパーソナル」にご登録いただいた場合は、web上でも結果を閲覧できます。
※任意

Q 検査を受けられない人はいますか

A 16歳以上の方であればどなたでも検査可能です。抗生剤服用中と服用後1ヶ月間、生理期間中、バリウムや下剤の服用直後はなるべく採便をお控えください。

検査結果レポートイメージ (一部抜粋 ※全8ページ)

腸内フローラ判定

腸内フローラバランスを5段階で評価します。

腸内フローラ(総合)判定

腸内フローラを構成する菌のバランスをもとに、A-Eの5段階で腸内環境を評価してD、E判定の場合は、バランス崩壊(ディスバイオーシス)が疑われるため、積極的が必要です。理想的な腸内環境に近づけるよう、A判定を目指しましょう。

E **判定** **バランスが悪い**
(ディスバイオーシスの疑い)

前回: D 前々回: -

コメント
有用菌が全般的に少なく、フローラです。生活習慣を改善して、3ヶ月再検査をおすすめします。

疾患別リスク判定

糖尿病、高血圧、大腸がんなどの腸内フローラからみた疾患リスクがわかります。

疾患別リスク判定

機能性下痢 (IBS)



前回: 低 前々回: -

コメント

腸内フローラのバランスから見たIBS(機能性下痢)のリスクは低いと考えられます。引き続きp.5のような生活習慣を継続してください。

改善アドバイス

不足している有用菌の増やし方や、要注意菌の改善方法などがわかります。

個別注目菌 (有用菌)

改善ポイントトップ3

p.4の個別注目菌(有用菌)の結果を改善するために、あなたにとって特におすすめの、具体的な改善実践方法やアドバイス上位3項目です。

1 果物の摂取

果物には、腸内細菌のエサになる水溶性食物繊維や糖アルコールが含まれています。特に旬を迎えた果物は、栄養価が高い傾向にあります。1日1品の果物が理想的な習慣です。



この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌 (ラクノスピラ)
- やせ菌 (クリステンセネラ)
- アクティブ菌 (ロゼリア)
- アクティブ菌 (モグロバ)

2 運動

適度な運動は、自律神経に良い影響を与え、排便に必要な腸内運動を促します。マイキンソーデータでは、週に60分以上運動している人ほど菌叢が安定傾向にあります。



この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌 (ラクノスピラ)
- アクティブ菌 (ロゼリア)
- 酢酸産生菌 (ゼフィス菌)
- アクティブ菌 (フタリシコックス)
- アクティブ菌 (モグロバ)

3 牛乳・チーズの摂取

牛乳やチーズには、腸内細菌のエサとなるオリゴ糖が含まれています。マイキンソーデータでは、牛乳・チーズの摂取頻度が高いほどビフィズス菌の保有率が高い、というデータもあります。



この生活習慣で改善できる菌

- 酢酸産生菌 (ゼフィス菌)
- やせ菌 (クリステンセネラ)
- アクティブ菌 (モグロバ)

健康長寿菌判定

健康長寿の人の腸内に多い、「ビフィズス菌(酢酸産生菌)」と「フィーカバクテリウム」保有していたかどうかを判定しています。※各菌の詳細結果はp.4「個別注目菌の結果」



前回: 2種とも豊富 前々回: -

コメント
ビフィズス菌(酢酸産生菌)p.4の個別注目菌の結果

健康長寿菌判定

元気な高齢者の方に多い菌を3段階で判定します。

有用菌/要注意菌の割合

良い働きをしている有用菌や、悪い働きをしている要注意菌の割合がわかります。

カテゴリ	検査項目	菌内取(%)	結果(割合)
有用菌	酪酸産生菌	フィーカバクテリウム アナエロスティベス クロストリジウム	9.24%
	酢酸産生菌	ビフィズス菌 (ビフィズス菌)	1.17%
	プロピオン酸産生菌	ディアリスター	0.00%
有用菌	エクオール産生菌	アドレクルーツア スラックア	0.87%
	やせ菌	クリステンセネラ	0.00%